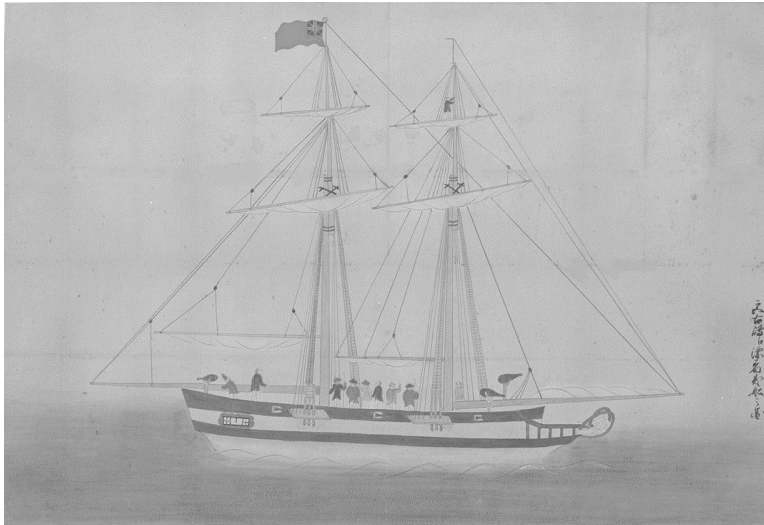


『沖縄の歴史情報研究』の終了にあたって

横山 伊徳：東京大学史料編纂所 (yokoyama@hi.u-tokyo.ac.jp)

私にとって、重点領域研究『沖縄の歴史情報研究』に参加させていただき、4年間勉強したことは、二重の意味で感慨深いものがあります。



一つは、研究対象としての沖縄です。75年大学入学世代からすると、沖縄返還問題を自らの問題とした年代の歴史研究者とはちがいに、沖縄がよく見えなかったのです。この蒙を啓いてくれたのが、82年教科書『沖縄戦記述』の問題であり、88年『家永教科書裁判』で沖縄出張法廷でした（最中問と『歴史の法廷』（大月書店）を刊行しました。興味のある方はご覧下さい）そして、上記の「宮古島江漂着異船之図」（東京大学史料編纂所蔵）が導きの糸でした。

もう一つは、インターネットとのつきあいです。山崎カヲル「サイバー空間のサパティスタ」（『本とコンピュータ』3、1997）には

なにはともあれ、このネットワークを知る必要がある。ということで、高速モデムを購入し、研究室の電話回線につなぎ、……1995年の夏休みいっぱいを使って、あちこちのサイトを訪問する作業が始まった。秋からは専用回線が使えるようになったので、ただちにイーサネット（イーサネット）でパソコンと学内LANをつなぎ、……本格的にインターネット利用に突入した。……もちろん、困難は大きかった。LANとの接続と同様に、サーバマシンの設定等のすべてを参考書片手に独力でやるよりなかった。ページに使う写真のデジタル化とレタタッチング、ビデオクリップや音声クリップの作成・編集、進化したHTMLの追跡、CGIやJavaの学習など、ワープロとデータベース以外にパソコンを使ったことの無かった人間が五十歳をすぎて習得するには、いささか手にあまる技術の数々が待ち受けていて、それらをひとつずつクリアするために、信じがたいほどの時間を費やしてきた。しかし、自分のウェブページをまがりなりにも作り上げ、ネットワークに載せ、いまこいたるまで更新しつづけていることによって、得ることができたものの大きさは、失った時間を補ってあまりある

という話が載っています。私の思いも、ほぼ同じです。ひとつだけ違うところがあるとすれば、この重点領域に参加して、山崎さんや私と似たような経験をした、多くの人々と出会えたことです。このことは私の宝です。